

第58回

県高校総体

第1目

にした。ソフトテニス男子はつるぎが3年連続4度目の優勝。女子は脇町が12年連続で制し、優勝回数を17に伸ばした。バドミントン女子は城東が15年連続27度目、男子は徳島商が6年連続19度目の制覇。ライフル射撃ビーム男子は小松島西勝浦が5年ぶり3度目の頂点に立った。第2日の2日は25競技が行われる。

男子は城南3連覇

卓球

[illegible]

等	寺	板	
秦	秦		
本	本	東	
3	3	3	0
0	1	1	3
平	森	平	戎 戎
田	影	田	野 野



女子決勝・徳島商対徳島市立 ダブルス戦を制した徳島市立の寺本（手前）・秦組一とくぎんトモニアリーナ（山田旬撮影）

勝負樂しみ会心雪辱
徳島市立

寺本が繰り出したフォアハンドの強打が相手の返球ミスを誘い、2時間を超え、激闘に終止符を打った。決勝でライバルを下し、2連覇を果たした女子の徳島市立。うれし涙があふれる選手たちは肩を抱き合い、歓喜の輪をつくった。

勝利の立役者は2年生コンビの寺本と秦。2試合を落とし、後がなくなった状況で第3試合の女

ブルス戦に登場。互いにミスを力バーする愚の合戦で制し、反響のろしを上げた。

残る2試合は同時に始まり、第4シングルの秦が先に勝利。2-2と

なり、勝負の行方は第3シングルの寺本に委ねられた。重圧がかかる状況にも寺本は「緊張はしなかった。勝負を楽しめた」と充実の表情で振り返った。

決勝の相手の徳島商には2月の県新人大会と4月の県選手権で惜敗。悔しさを忘れないよう、学校の卓球場に当時の新聞記事を張り付けて練習を重ね、最後の大会でリベンジを果たした。

2年生の活躍で手に入れたインターハイへの切符。日高主将は後輩に感謝した上で「目標はベスト16。そのために必要なことをイメージし、計画的に練習したい」と冷静に次を見据えていた。

(石津 遼)

(石津遠)